

7月16日の70号に「青田風」という文章を載せた。その続編になる。この前、また米沢に行ってきた。いつもとは違って、ラーメンではないランチをいただいた。お店の場所が、ちょうど米沢駅のすぐ近くだった。いわゆる駅前通りに位置している。米沢には何度なく来ているが、駅舎を見たのは初めてだった。どうやら、米沢の街は、駅前が中心というわけではないらしい。とはいえ、せっかくだからと、駅前通りを歩いてみた。すると、峠の力餅米沢店があった。これは買うしかない。スーパーにも入ってみた。何となく米沢の様子がわかる。

いつもならば、食後の珈琲を求めてお店を選ぶのだが、この日は迷わなかった。すぐに決まった。そう「青田風」である。お店に入る。お客さんは誰もいない。ご主人は新聞を読んでいた。しばらくの間、お客さんが来なかったのだろう。どこにでも座れたのだが、この前とは違うソファの席に落ち着いた。この席からは、眼前の青田がよく見渡せる。このお店の特等席である。

オーダーしたのは、珈琲にケーキである。すると、前回同様、ご主人は別室へと消えた。別室には、奥さんが待機している。ケーキのオーダーを入れたのである。ほどなくして、ご主人は戻り、珈琲に取りかかった。まもなく珈琲ができるというタイミングで別室から奥さんがケーキを運んできてくれた。ケーキには、桃が添えられていた。ここで、家人が話しかけた。「美味しそうな桃ですね」「福島の桃なんです」「私たち、福島から来たんです。福島の桃は美味しいですもんね」「福島まで買いに行くんです」「そうなんですか」こんなやりとりがあった。

ほのかないい香りとともに、珈琲が届いた。また家人が声をかけた。「どうしてお店の名前は『青田風』なんですか」これは、私もぜひ聞きたかった。すると、ご主人が話してくれた。他にお客さんがおらず、ちょうどいいタイミングだった。

前回、初めて来たときに、お店の前には、それこそ青田が広がり、育ってきた稲が風に揺れていた。てっきり、この風景から青田風とつけたのかと思っていた。違っていた。お店をつくる前に、最初からお店の名前は青田風と決めていたそうである。奥さんのお父様が俳人で、その句集の名前が『青田風』だった。ここからとったそうである。お店のカウンターにハードケースに入れられたりっぱな句集『青田風』があった。

この青田風に合うような場所をあちこちと探して、ようやく今の場所にお店をつくったとのことだった。なかなか見つからず苦労したそうである。目の前の青田の先には、小さな神社があり、またその先を斜めに道路が通っている。こういった場所を探したのだという。青田風というお店から見える景色は、ご主人がイメージした計算されたものだということである。やはり、このご主人は、かなりの方である。聞くと、以前は神奈川の花でギャラリーをやっていたそうである。米沢に来て、7年前に今のお店を始めたとのことだった。道理で、お店には、素敵な絵やオブジェがあるわけである。

ご主人いわく、目の前の景色は、今は青田だが、秋には黄金色になり、冬には真っ白になり、季節ごとに変わっていくのだという。それがまたいいそうである。これは、また来るしかない。次は、さらに成長した稲が見られるだろう。風にそよぐ姿は、さぞかし綺麗なことだろう。また、楽しみが増えた。